

大志を育む



平成 29 年 1 月 16 日

(教職員向け)

教育委員会だより

No. 12

発行：北広島市教育委員会

北広島市における特別支援教育の現状 ～学校訪問を通して～

特別支援教育アドバイザー 館岡 道宏

平成 25 年 9 月に学校教育法施行令の一部改正が行われ、合理的配慮に基づいて、児童生徒・保護者の希望がこれまで以上に尊重されるようになりました。また、平成 28 年 4 月 1 日には、障害者差別解消法が施行され、特別支援学級設置校のみならず、すべての学校において特別支援教育の指導・支援の質が問われる時代となりました。学校の現状は、障がいの重度化・重複化・多様化などの課題や交流教育にかかわる課題、児童生徒への支援や合理的配慮など、特別支援教育を推進する上で多くの課題をかかえています。

全小中学校に特別支援学級が配置されている北広島市は、「児童生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かな教育支援の実施」を実践への具体的手立てとしながら、これらの課題を解決するために様々な努力や工夫がなされています。その取組の成果と課題についていくつか紹介したいと思います。

(1) 成 果

- 小学校では、学年が進むにしたがって、通常学級における支援対象児童が減少傾向にある。
- 中学校では、全体的に対象生徒が減少傾向にある。
- 特別支援教育支援員・特別支援学級介助員が有効に活用され機能してきている。
【例】
 - ・校内支援委員会で支援を要する優先順位（A 判断、B 判断、C 判断）を決めて取り組んでいる。
 - ・毎週、コーディネーター、担任、支援員で打合せの時間を確保している。
 - ・支援員と担任の間でカルテのようなものを作成し、実際に打合せをもてない部分を補完している。
- 特別支援に関する研修が増え、内容も充実してきた。
【例】
 - ・「個別の支援計画」「ユニバーサルデザインの授業」「障害者差別解消法」等の研修内容の工夫。
 - ・外部講師の招聘、コーディネーター通信の発行等、教職員の意識を高める取組。
- 特別支援教育コーディネーターを中心とした教育相談機能が向上してきた。
 - ・個別支援計画の作成とそれに基づく教育支援
 - ・心理検査や発達検査を活用した保護者との相談
- 個別の指導計画に応じた交流学习が各校で積極的に行われている。
- 通級指導教室（ことばの教室・コムキタルーム）は各校との連携が図られ、保護者からの信頼度も高い。
- 特別支援学級合同事業の内容が年々充実してきている。

(2) 課 題

- 小1から小4までの通常学級における支援対象児童の割合がいずれも 10%を超えている。
- 特別支援教育においても幼保・小・中の連携を進め、型通りの引継ぎだけで終わることなく、活動観察等も含めて教育内容を充実させていきたい。
- 支援の方法や進級・進学時の相談等、保護者との合意形成を図ることに苦慮している。
- 最低限、支援学級では全ての児童生徒の支援計画を、保護者との合意の下に作成したい。

(3) 市教委として

- 一般教職員向けの特別支援教育に関する研修の機会を設けたい。
- 支援員や介助員の未配置校について、実態を考慮した上で解消を目指したい。
- 就学時健診における発達スクリーニング検査及び二次検査の効率的運用を図りたい。
- 困り感の強い児童生徒については、ケース会議等を開いて他機関との連携を強化したい。



大曲小学校で取り組む特別支援教育

教室環境

大曲小学校では、各教室の前面掲示のレイアウトを統一しています。掲示物は、『教育目標』と『学びの約束』、そして、『日課表』です。子供たちの作品や学習に必要な掲示物は、教室側面や後ろの壁に貼ります。教室の左前面にある教室棚には、カーテンをつけ、中が見えないようにしています。これらの教室環境づくりの目的は、子供たちが学習する際に、正面情報をできるだけ少なくすることで、板書に注目し、学習に集中できるようにするためです。どの子にとっても学習しやすい環境を作ることにも特別支援教育の取組の一つです。



教室前面



教室棚のカーテン

教育相談

本校には、特別支援教育に関して、保護者からの教育相談に応じたり、個別の教育支援計画の作成を担当する2名の特別支援教育コーディネーターがいます。個別の教育支援計画は、一人一人の子供について、学習や生活上の目標を設定したり、達成のための手立てや配慮する点について保護者とよく相談してまとめたものです。その際、子供さんの実態を心理検査や発達検査等を使って客観的に把握し、苦手な分野やつまずきの要因を明らかにするなどの方法で行います。個別の教育支援計画は、進級や中学校への進学の際の引き継ぎにも役立てていくことができます。



個別の教育支援計画



交流教育 特別支援学級

大曲小学校には、「かしのみ学級」という子供一人一人のニーズに合わせた教育を行う特別支援学級があります。それぞれの子供の実態に合わせた個別の指導計画を立て、学習しています。学習内容は、国語や算数等の教科の他に各教科を合わせた指導（生活単元学習）や子供たちのニーズに応じた学習（自立活動）の時間があります。子供たちは、運動会や学芸発表会などの学校行事の他、それぞれの学年との交流学習も行っています。交流学習のねらいは、かしのみ学級の児童と通常学級の児童が直接触れ合うことで、お互いを理解し、尊重し、支え合って生きていこうとする気持ちや態度を育てることです。写真は、6年生との交流会の様子です。チーム対抗のゲームなどをして、楽しく交流をしました。

